

5

戦国時代の山城を訪ねて
 おおつくやま
機峠から大築山へ

[歩程]	約4時間半
[交通費]	約2200円
[地図]	正丸峠 (2万5千) 東京 (20万)

大築山は、梅の里として知られている越生町とときがわ町との境にある小さな山である。戦国時代に築かれた山城跡があり、越生町では麦原のあじさい山公園と共に城山として道標を整備した。地図に山名はないが、奥武蔵の峠から一周すると静かな日だまりハイキングが楽しめる。

越生駅前から8時18分発のときがわ町代替バスに乗り、役場前で乗り換えて柵平へ向かう。乗客は主に通学の子供たちだけで、休日は運休となる。

日向根と向尾根の集落を合わせて柵平という。そして、谷を隔てた東に、地図上466mの標高点のある山が城跡のある大築山で、城山または大津久山とも呼ばれる。

バス終点から立派な舗装道路を日向根へ上がっていく。右手に廃校となつた大柵第二小学校をみて集落を抜けたら、南西に延びる尾根をゆるやかに上がっていく。秩父往還という道で、途中に立派な山の神が祭つてある。

機峠に出て石田波郷の句碑を見たら、グリーンラインを飯盛峠に向かう。飯盛山は今日の最高地点だ。北東に、これから行く大築山が小さく見える。山頂を越えて峠の道標から東へおりていく道に車輛通行止の柵がある。この道へ入るのだが、一部が崩れているのので注意したい。

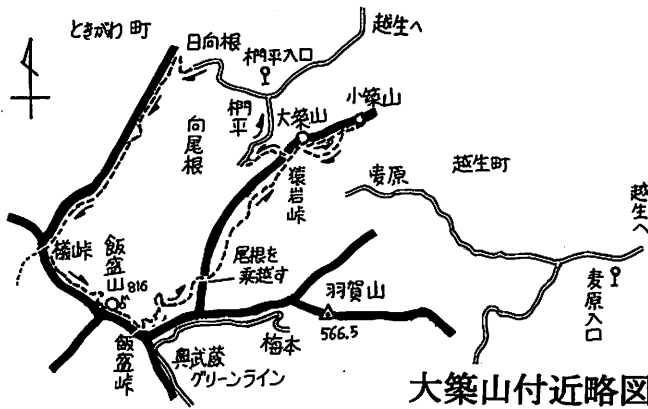


大築山にはかつて城があった

尾根を乗っ越すところには鎖が下がっている。この尾根を右へ登っていくと、30分ほどで梅本から上がってきている車道に出る。猿岩峠へは左へ下っていく。馬場や硯水という遺跡をすぎ、林をぬけると十字路となつた猿岩峠。左は柵平へ、右は麦原へくだる。大築

山へは直進し、少し藪っぽい尾根を上がっていく。山頂は東西に延びる平頂で、柗平など北側の眺めがよく、遺跡の案内板もある。

小田原北条氏の家臣・上田朝直が当



大築山付近略図

時強力な勢力を持っていた慈光寺の僧兵を攻略するために云々と書いてある。すぐ隣の小築山に寄ってみよう。山頂から東へ進む。少し下ってから尾根伝いに登り返した林の中の平頂が小築山だ。丸太を組み合わせたベンチもあるが、展望は全くない。里山とはいえ、吸いこまれそうな静寂感が漂う。

猿岩峠から柗平へ戻るには、小築山と大築山の鞍部から南西へ下る。右へモロドのぐるわという展望のよい所をすぎて、山腹を回りこむと先ほどの猿岩峠へ出る。

北へ林をぬけて小さな沢を板の橋で渡ると車道になる。大築城址入口の道標が分岐にある。右へ沢沿いに行けば製材所をすぎてまもなく柗平入口バス停に着く。

ここには、秩父往還などを往来する者を監視するために設けられた大木戸という遺跡がある。今はのどかな山村も戦国の昔には凄絶なくさの舞台だったのだろうし、秩父への重要なルートでもあったのだろう。越生へのバス

は15・30と16・58である。

〔付記〕

小築山から南へ下ると、麦原から住吉神社を経てあじさい街道とよばれる里道を約1時間半で、黒山からのバスが通る麦原入口へ出る。

(05年12月2日歩く)

● コースタイム

越生⇨バス30分⇨柗平⇨1時間⇨日向根上部⇨40分⇨峠⇨30分⇨飯盛峠⇨1時間⇨猿岩峠⇨15分⇨大築山⇨15分⇨小築山⇨20分⇨猿岩峠⇨10分⇨車道⇨15分⇨柗平入口⇨越生

● 費用

池袋⇨越生 東武 700円
越生駅⇨柗平 ときがわ町バス 390円

〔地図〕

正丸峠(2万5千)

〔問い合わせ先〕

ときがわ町役場(柗平線)

0493-65-1521
川越観光自動車(黒山方面バス)

0493-56-2001

(執筆/澤田幸子)